

# 南会津町青少年の主張大会



## 小学生の部

審査結果	氏名	学校名	学年	テーマ
最優秀賞	阿久津心陽	舘岩小学校	6年	平和な世界にするために
優秀賞	平野 果穂	伊南小学校	6年	私の吃音症
	関根 和咲	田島小学校	6年	南会津町の魅力を広げたい
	大関 杏奈	松沢小学校	6年	命を尊重する
奨励賞	佐藤 奈央	南郷小学校	6年	私の心の中
	山田 紘平	荒海小学校	6年	ぼくが全力で取り組んでいること
	藪本 美優	田島第二小学校	6年	私たちの将来

## 中学生の部

審査結果	氏名	学校名	学年	テーマ
最優秀賞	星 このか	田島中学校	3年	祖父の味を守るために
優秀賞	近藤 心優	南会津中学校	3年	私たちにできること
	大橋 未芽	舘岩中学校	3年	二人のおばあさん
	杉原 夢乃	田島中学校	3年	集団とストレスの関係
	羽染 茉弥	南会津中学校	3年	支えられているから
奨励賞	井上 愛叶	荒海中学校	2年	「大人」とは何か
	阿久津日陽	舘岩中学校	3年	差別のない社会へ
	渡部 愛未	荒海中学校	3年	コロナ禍から学んだこと

## 高校生・青年の部

審査結果	氏名	学校名	学年	テーマ
最優秀賞	大竹 花林	田島高等学校	3年	私達が戻れる故郷が在り続けるために
優秀賞	渡部 凱斗	田島高等学校	3年	南会津町における「幸せ」とは
奨励賞	鈴木 陽翔	南会津高等学校	2年	活気ある町にするために
	菊地 一平	南会津高等学校	2年	ボランティアで考えたこと



田島吹奏楽団による演奏

令和4年度南会津町青少年の主張大会を7月3日、御蔵入交流館文化ホールで開催しました。町内の小・中・高校から計207名の応募があり、学校推薦による19人が発表会に出場しました。

出場した19人の主張の題名をここで紹介するとともに、小学生、中学生、高校生・青年の各部門で最優秀賞に輝いた3つの主張を、原文のまま掲載します。また、幕間には「田島吹奏楽団」による演奏が披露されました。公の場で演奏するのは、約2年半ぶりのことでしたが、心躍る演奏に来場者からは、盛大な拍手が巻き起こりました。

ここにいるほとんどの人たちは、戦争のない平和な時代に生まれた。そして、私は戦争についてまだ何も知らない。

戦争という言葉が気になり出したのは、今年に入ってからだ。二月、ロシアがウクライナに攻め込み、戦争が始まった。ウクライナ市民のぎせいは増え続けている。私と私と同じ年齢の子ども達も被害に巻き込まれている。その記事を見て、私は胸が苦しくなった。どうして、戦争を始めたのだろう。私たちが人間の、大切な命をうばい合うこの戦争に、どのような意味があるのだろうか。私には考えても考えても分からなかった。

ふとニュースを目をやるとそれぞれの国の代表者が、演説をしている様子が流れていた。私が不思議

議に思ったのは、その二人の代表者が直接会って話をしていないことだった。それぞれが自分の意見ばかりを主張し、相手と話し合おうとすらしていない。確かに、社会の授業でも学んだ通り、国の代表者は多くの国民を支える政治をしている。自分の国を強く守りたいと考えているのだろう。しかし、どんな考えであろうと、人が傷つけ合うことは決して許されないことだと私は思った。

私たちの学級でも、友だち同士の傷つけ合いがあった。言葉での傷つけ合いだ。かげで悪い言葉が広がり、学級の雰囲気も悪くなっていた。悪い言葉を言った本人は、何も感じないけれど、言われた人の気持ちはどうだろう。気持ちは落ち込み、同じ学級の仲間と

して、うらぎられた思いになるのではないか。私たちは学級会を開き、みんなで話し合うことにした。悪い言葉を言われた人の気持ちや、どうして悪い言葉を使っているのかを真剣に話し合った。私たちが話し合う際に心がけたことは、「相手に寄り添って意見を言うこと」だった。悪口を言っている人も、きつと、ストレスがたまっていると言いたくもない言葉を使ってしまったのだからという意見も出た。最後は、自分たちで悪口を言わない、友達同士注意し合うなどのきまりを決め、学級会を終えた。この出来事は、戦争とつながりがあることに気付いた。それぞれの国が寄り添った意見を出し合えば、戦争も止められるのではないかと考えた。

私は、やはり戦争のない平和な世界にしたい。戦争によって命がうばわれそうになって、おびえている人々を増やしたくない。この日本では、日本国憲法の中で平和主義という考えを大切に、戦争はもう行わない考えをもっていい。国民みんなの寄り添った意見がこの憲法にまつている。そんなルールが全世界に広がればよいと思った。私たちは戦争を知らないかもしれないが、「相手に寄り

そって意見を言うこと」で、傷つけ合うことも、戦争もなくなるかもしれない。一日でも早く、戦争が終わって、世界が笑顔であふれる世の中になってほしいと私は願う。



舘岩小学校6年  
阿久津 心陽 さん

自分の思いを堂々と伝える発表者の姿







田島中学校3年 星 このかさん

「田島に帰ってきたら三浦屋のバナナクレープが食べたくなるんだよね。」

「田島に帰ってきたら三浦屋のバナナクレープが食べたくなるんだよね。」

祖父のお店に来るお客さんの言葉に、私も嬉しくなります。私の祖母は南会津町で百年近く続く菓子店を経営しています。祖父の作るバナナクレープは私も小さい頃から大好きで、三浦屋の伝統の味です。地域で受け継がれるお祭があるように、御菓子屋にも代々守り続けてきた伝統の味があります。そういった伝統も後継者不足や日々新しいものが生み出される現代の風潮に脅かされている気がします。伝統を守るため、そして次世代にその伝統を継承していくためには、私たちはどうすればよいのでしょうか。バナナクレープの生地を一枚一枚手作業で焼いていく祖父の姿に、そんなことを考えるようになりました。

幸い、祖母のお店は東京で修

行をしてきた従兄弟が後継者となり、今も祖父と一緒にお店を支えてくれています。しかしその一方で、昔ながらの製造方法や味を受け継いできたお店が、後継者が見つからず、仕事を続けるのは自分の代で最後にするお店も近年増加していると聞きます。確かに今の時代、伝統文化に興味をもつ若者は減少し、新しいものに関心を示す若者が増えてきています。そんな中で後継者を探し、育成していくことは容易なことではありません。さらに技術力の向上により、焼き物よりも丈夫で安いプラスチック製品や、扇子よりも涼しく手軽な携帯式扇風機など、利便性の高い製品が開発され、伝統的な商品は高価なものとして遠ざけられている状況です。こうして考えると、「時代の移り変わり」が伝統文化の衰退に拍車をかけているように感じました。

ですが、「時代の移り変わり」は、活用次第で伝統文化をさらなる発展へ導きつかけにもなりうると思うのです。例えばSNSを利用して伝統文化の魅力を発信できれば、周辺地域のみならず、全国各地、さらには世界中の人々に日本の伝統を知ってもらうことができると思います。現に祖父のお店では従兄弟が若者向けの洋菓子作りや地元の食材を使った新商品の開発を進め、彼の奥さんがそれらをSNSで紹介しています。今ではそのお菓子が祖父のバナナクレープに並ぶお店の看板商品となり、それを目当てに遠方から買いに来る若い世代のお客さんも増えてきたそうです。

もちろん、発信することも大切ですが、私たち若い世代が伝統文化に触れる機会を持つことも必要だと思えます。私や従兄弟は小さい頃から菓子作りに専念する祖父の背中を見してきました。日々の生活の中から知らず知らず学ぶこともあった気がします。だとすれば伝統文化に「触れる」、「学ぶ」機会を持つことが、若い世代の関心を高めるきっかけになると考えました。

そして伝統を引き継ぐうえで一番大切なもの、それは「思い」です。従兄弟は帰郷する前に関東のお店で働いていました。彼にはお

店を継ぐ以外の選択肢もあつたはずですが、それでも地元に戻る道を決意したのは、懸命に菓子作りに取り組んできた祖父の味を絶やしたくないという思いと生まれ育った地元への愛着があつたからだと思います。祖父から受け継いだものを守るだけでなく、新しい商品の開発や材料の吟味、そして時代の流れに沿った情報の発信など、食べてもらう、買ってもらう人の気持ちに寄り添っていかうとする姿勢には、身内ながらも誇らしく思います。

古くから続く昔ながらのやり方を変えていくことに抵抗を感じる人もいるかもしれませんが、その時代のニーズに合わせた新しい考え方も取り入れていかなければ、大切な伝統自体が「形」すら残らなくなってしまうと思うのです。古くから大切に受け継がれてきた多くの日本の伝統文化。それを守るためにできること、それは「新しい継承の形」を模索し、実行していくことではないでしょうか。和菓子やケーキを作ることには生きがいを感じている祖父。その姿から学び、新しい伝統の味を作り出そうと奮闘する従兄弟。そんな姿を間近に見るたびに、ものを作る人の「思い」や日本が誇る「伝統文化」がこれからもずっと続いてほしいと願う私がいいます。

皆さんは地域教育という言葉聞いたことがありますか。私は南会津町に住む子供達の教育の発展のために、地域教育の更なる促進が必要だと思えます。今日は、私が考えるこれからの地域教育の在り方について話したいと思えます。

田島高校には除雪ボランティアという活動があります。この活動は、地域貢献を目的とした地域教育の一環だと思います。1、2時間という短い時間の活動でしたが、一人暮らしの高齢者宅へ訪問し、除雪活動をしました。今までの私は、奉仕活動に自主的に参加したり、前向きな気持ちで取り組んだりすることがあまりなかったように思います。しかし、今回の活動では、私の祖父母から除雪作業が身体的に大変だときいていたので、私が地域の力になりたいと

積極的に取り組みました。除雪が終わった後に地域の方々から、何度も何度も「寒いのにありがとう」と声をかけられ、大きな達成感とともに、この地域には高校生の力が必要だと感じました。

地域教育というものは、子供達に「生きる力」を育むために、地域社会の中で様々な世代の人と交流して、様々な体験を豊富に積み重ねるというものです。現在日本の地域教育は、少子高齢化に伴う子供の減少や都市化が進み地域のつながりの希薄化が原因で衰退していると言われています。一方、最近では「地域とともにある学校」と言った言葉をよく耳にするようになり、地域教育の重要性が謳われるようになりました。地域教育を行う地域の人へのメリットは、地域の方々がこれまで生涯学習で

学んできた知識や経験を生かす場が広がり、生きがいにつながることでや、地域社会を担う個性豊かで多様な人材育成ができるということです。地域の未来を担う子供たちの成長は、その地域に住む人々の希望であると思えます。そして、子供達にとつてのメリットは、教科書では学べない社会の中で生き抜く知恵を学べるということだと思います。地域のことをよく知っているのは、地域の方々だと思います。実際に地域に出てみなければ気づかなかつた、文化や歴史があると思えます。そして、より良い地域教育を行うためには、子供達や地域の方々为主体的に活動することが大切だと思います。

南会津町は一九九五年約3万4千あった人口は、二〇二一年には約1万5千まで減少しました。さらに、現状の人口動態が今後続いた場合、二〇六六年に6千6百人程度まで減少すると言われていています。六六〇〇という数は、東京デイズニアランドの一日の来場者数の8分の1にも満たない衝撃的な数なのです。主な原因は、少子高齢化や都市部への流失だと言われています。このまま、人口減少を食い止めることが出来なければ、私たちが通った母校だけでなく、生まれ育った南会津町

さえも失いかねません。来年には南会津高校と田島高校との統合もあり、町内にある学校の生徒数が減っていることの現れだと思えます。私は、南会津を失わないためにも、地域の人口減少の現実を理解し、地域が一体となって地域教育に取り組むことが必要だと思えます。そこで私は、高校の総合的な探究の時間を活用し、生徒と学校が地域企業と一緒に課題解決について活動することを提案します。

授業で考えた私たちの課題解決策が、実際に地域で効果的かどうかを南会津町に関わる人たちが取り組むことで課題解決につながるだけでなく、高校生には郷土愛を育み、町には地域創生の人材確保の機会にもつながると思うからです。

私は高校卒業後、大学で教育について学び南会津町に帰ってきて、地域教育を促進させ子供達の教育の発展だけでなく、南会津町の活性化に尽力したいと思えます。そのためには、私たち若者が帰ってくる故郷がなければなりません。協力してくださる地域の方々が必要不可欠です。そして、南会津町の人口減少を食い止めるためには、地域教育を促進させ、郷土愛を育み、地方創生への人材確保、そして子供達の教育の発展に努めなければならぬと私は思っています。

田島高等学校3年 大竹 花林さん

